

第3章 「第二次多摩市子どもの読書活動推進計画」の策定

基本理念 「すべての子どもに読書のよろこびを」	基本目標Ⅰ 本の楽しさを子どもたちに －本に親しむ機会の充実－	重点方針 1 乳幼児期から身近に本のある生活の重要性を保護者に伝え、読書活動の推進を図る 2 子どもの自主的な読書活動への支援 3 読書活動や図書館利用がしにくい子どもへの読書の提供	15の施策
	基本目標Ⅱ いつでもどこでも本はともだち －読書環境の整備と充実－		
	基本目標Ⅲ みんなでつながり育てあう －人材の育成、関係機関等との協力・連携－		

1 基本理念

すべての子どもに読書のよろこびを

読書のよろこびは、本の世界の楽しさやすばらしさを体験し、いろいろな考えや生き方にふれ、自分の考えを深め、悩みや苦しみを乗り越える力を与えられることなど、さまざまです。そして、このような読書のよろこびを感じ、豊かな心を育み、未来への可能性を広げてほしいと考えます。第一次計画では標語として掲げていた「すべての子どもに読書のよろこびを」を第二次計画では基本理念とし、継承・発展させていきます。

2 基本目標

基本理念を達成するために、3つの基本目標を設定しました。

基本目標Ⅰ 本の楽しさを子どもたちに ー本に親しむ機会の充実ー

子どもが、かけがえのない本と出会い、読書に親しむ機会をつくります。

基本目標Ⅱ いつでもどこでも本はともだちー読書環境の整備と充実ー

子どもが読書に親しみ、おはなしを楽しむことができるよう、また興味や関心を捉えた本に出合えるよう読書環境を整備します。

基本目標Ⅲ みんなでつながり育てあう

ー人材の育成、関係機関等との協力・連携ー

子どもと本を結びつける活動を行う人材を育成、支援し、人々がつながり、子どもの読書活動が広がるようにします。

3 第二次計画を推進するための重点方針

第一次計画の成果と課題を踏まえ、第二次計画では以下を重点方針とします。重点方針は、基本理念を達成するため基本目標に基づいて施策を行うにあたり、すべての取組について特に重点を置く方向性を示しています。

1 乳幼児期から身近に本のある生活の重要性を保護者に伝え、読書活動の推進を図る

乳幼児期は、周囲の大人が本に親しむ環境をつくることにより、初めて本と出会うことができるので、身近な人から本を読んでもらうことの重要性を保護者に伝えます。

2 子どもの自主的な読書活動への支援

子どもたちが、自分の興味や関心に応じた本に出会うよう支援します。そして、子どもたちが、自分自身のために、自由に本を選び楽しむことを支援します。

3 読書活動や図書館利用がしにくい子どもへの読書の提供

配慮が必要な子どもやあまり読書に親しみがないう子どもへの取組を、子ども一人ひとりの状況に合わせて実施します。

4 計画の対象

本計画は、おおむね0歳から18歳までを対象としています。

子どもたちの成長段階や状況にあわせた読書活動の支援が必要であることを踏まえ、対象を5つに区分しました。

なお、各々の対象で重視、配慮すべき点については、前述の3つの基本目標ごとに、第4章で解説しています。

(1) プレママパパ⁵・乳児

これからあかちゃんを迎えるプレママパパが絵本に親しむ時期、言葉に出合い、読み手のぬくもりを楽しむあかちゃんの時期。

(2) 幼児

一対一での読み聞かせのほかに、集団で読み聞かせのおはなしを楽しみ、友だちとその世界を共有できるようにもなる時期。

⁵プレママパパ:これからママやパパになろうとしている人のこと。

(3) 小学生

文字が読めるようになり、一人読みが始まり、また自分を見つめはじめ、自己と対話しながら読書をとおしていろいろな生き方にふれる時期。

(4) ティーンズ⁶

おおむね13歳から18歳までの子どもを対象としていて、多様な生き方、考え方にふれながら自己を確立していく時期。

(5) 配慮が必要な子ども

障がいのある子ども、長期入院している子ども、何らかの理由で学校に登校していない子ども、日本語を母語としない子どもへの読書支援。

配慮が必要な子どもたちそれぞれに対応した読書支援を行うことを目指している。

5 計画の期間

平成24年度から平成28年度までの5年間

6 計画の効果的な推進

- 第一次計画のように（仮称）子どもの読書活動推進連絡会を設立し、市民、関係機関等と連携しながら読書活動を推進します。
- 計画の評価、進捗状況について図書館を中心に進行管理をしていきます。
- 本計画は、時代の変化、状況に応じて見直しをしていきます。

⁶ティーンズ:「ヤングアダルト」と呼ばれることが多い。多摩市立図書館では「ティーンズ」の名称を用いてコーナーの設置やブックリストの作成などのサービスを展開している。第一次計画では「10代の子ども」と表現していたが、第二次計画では実際に行っているサービス名と合わせ「ティーンズ」とする。